相模原看護専門学校令和元年度自己点検･自己評価及び学校関係者評価の結果について

本校ではこれまで、教育活動及び学校運営等の質の保証と向上に継続的に取り組むため、自己点検・自己評価を行い、評価結果についてお知らせしてまいりました。

更に平成３０年度評価から、より一層の向上、特色ある学校づくりを目指し、自己点検・自己評価に加え、学校関係者評価委員会による学校関係者評価を導入いたしました。

学校関係者評価委員会からいただきましたご意見、ご提案等につきましては、随時検討を行い業務改善等に活かしてまいります。

令和元年度の評価経過及び結果について次のとおり報告します。

令和２年９月１６日

公益財団法人相模原市健康福祉財団
相模原看護専門学校
学校長　水　澤　晴　代

1 自己点検･自己評価

(1)評価方法等

令和元年度の学校教育活動について、学校教員による担当者評価及び自己点検・自己評価委員会により評価を行った。

(2)担当者評価

・令和２年１月～３月に実施

・学校長を含む全教員２１名及び事務長により評価

(3)自己点検・自己評価委員会

(2)の担当者評価結果について、分析等を行った。

〇開催日等　・令和２年６月２２日、７月３日
　　・相模原看護専門学校で開催

〇出席者　学校長、看護学科長、看護学科長補佐、事務長、事務次長ほか

(4)評価項目

「看護師養成所の教育活動等に関する自己評価指針」における 9 カテゴリー・125 項目

(5)評価基準

125 項目について、次の 3 段階で評価

よく当てはまる：3　　大体当てはまる：2　　当てはまらない：1

2 学校関係者評価

(1)評価方法等

学校関係者評価委員会を開催し、令和元年度自己点検・自己評価結果について評価を行った。

(2)学校関係者評価委員会

〇開催日等

・令和２年７月１５日　午後 4 時～6 時

・相模原看護専門学校で開催

〇出席者

評価委員（５名）

・今泉　弘　　相模原市病院協会理事、相模野病院長

・小林　一裕（副委員長）相模原市病院協会看護部長会長、相模ヶ丘病院看護部長

・篠崎　正義（委員長）　相模原市医師会事務局長

・水谷　武司　　相模原市医療政策課担当課長

・渡邉　加代子　神奈川県看護協会相模原支部理事、渕野辺総合病院看護部長

事務局

・学校長　・看護学科長　・看護学科長補佐　・事務長　・事務次長ほか

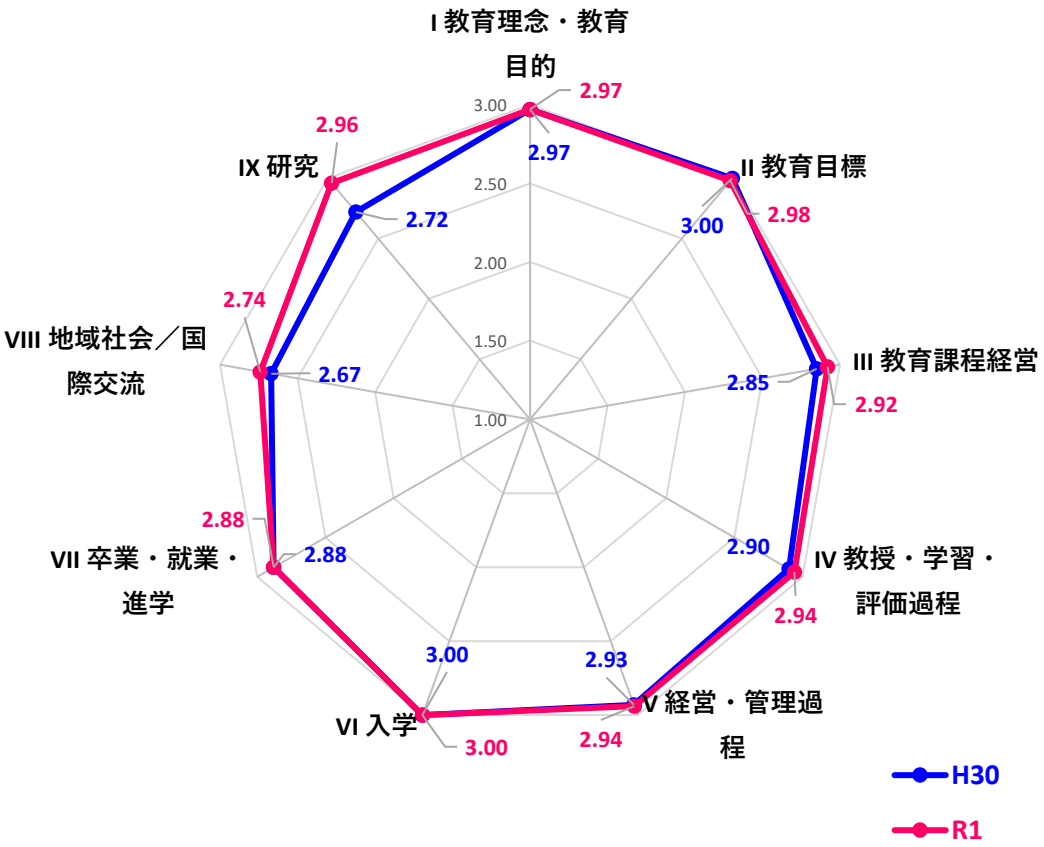
3 評価結果

別紙のとおり

以　上

令和元年度　自己点検･自己評価

評価項目（群）	平均値	
	H30	R1
Ⅰ　教育理念･教育目的	2.97	2.97
Ⅱ　教育目標	3.00	2.98
Ⅲ　教育課程経営	2.85	2.92
Ⅳ　教授･学習･評価過程	2.90	2.94
Ⅴ　経営･管理過程	2.93	2.94
Ⅵ　入学	3.00	3.00
Ⅶ　卒業･就業･進学	2.88	2.88
Ⅷ　地域社会／国際交流	2.67	2.74
Ⅸ　研究	2.72	2.96
	2.88	2.93



相模原看護専門学校　令和元年度自己点検･自己評価及び学校関係者評価結果

■自己点検・自己評価結果の評価点について

(1) 担当者が 3 段階で評価した点数の合計を評価者数で除した平均値

(2) 3 段階評価【よく当てはまる：3　　大体当てはまる：2　　当てはまらない：1】

(3) (　) の数値は平成 30 年度評価点　　前年度比較　○:上昇　▲:下降

カテゴリー【評価項目数】	評　価　項　目	自己点検・自己評価結果		自己点検･自己評価結果についての学校関係者評価委員会評価(評価の妥当性･意見･要望・改善点等)
		評価点	評価の根拠となる主な取組内容・特記事項・課題	
Ⅰ　教育理念・教育目的 【11】	1-1 教育理念･教育目的は、自養成所の教育上の特徴を示している。 1-2 教育理念・教育目的は法との整合性がある。 2-1 教育理念･教育目的は、学生にとって学習の指針になるように具体的に示している。 2-2 教育理念・教育目的は実際に学生の学習の指針になっている。 3-1 教育理念･教育目的は、養成する看護師等の質を保障するために、どのような教育内容を設定しているかを述べている。 3-2 教育理念･教育目的は、養成する看護師等の質を保障するために、どのような教育方法をとるのかを述べている。 3-3 教育理念･教育目的は、養成する看護師等の質を保障するために、どのような教育環境をとるのかを述べている。	2.97 (2.97)	1-1、1-2　本校の特色として、「地域に貢献できる」人材の育成を掲げている。 2-1、2-2　全学生に配布している「学習ガイダンス」に掲載し全学生に示し、学生の指針としている。 3-1、3-2、3-3　教育目標の実現に向けて、各学年及び卒業時の到達目標を明確にし、卒業後の継続教育・学習姿勢にも連動させている。	○教育理念や目的に沿って、教育活動が行われており、課題を意識して取り組んでいる様子が伺え、評価できる。 ○地域に貢献するという意識は、学生にしっかり伝わっているものと思う。一方で、教育理念や目的が、学生にとって、更に十分な学習の指針となるよう、教員間で認識を共有してもらいたい。

	4-1 教育理念・教育目的は、看護、看護学教育、学生観について明示している。 4-2 看護、看護学教育、学生観は実際に教師の教育活動の指針となっている。 5-1 教育理念・教育目的は、養成する看護師等が卒業時点においてもつべき資質を明示している。 5-2 卒業時点にもつべき資質は、社会に対する看護の質を保障するのに妥当なものとなっている。		4-1、4-2　看護師養成所として求められる「生命への畏敬の念」等を掲げ教員、学生の指針としている。 5-1、5-2　「看護実践能力を身につけ自律性を備えた」人材の育成を明示している。 （特記事項・課題） ・教員は、教育理念や目的が本校の特長を示していることを理解している。しかし、授業へ具体的にどのように反映させるか等、教育内容・方法の検討を継続していきたい。 ・令和 4 年度にカリキュラム改正が予定されているが、全教員が改正の趣旨を理解し、時代のニーズに合った教育課程編成ができるよう取り組む。	○理念や目的を具体的に分かりやすく反映できるように、新カリキュラム改正に計画的に取り組んでいただきたい。

Ⅱ　教育目標 【7】	1 教育目標は、教育理念・教育目的と一貫性がある。 2-1 教育目標は、設定した教育内容を網羅している。 2-2 教育目標は、最上位の目標として、教育活動のゴールが読みとれるものとなっている。 3-1 教育目標は、目標内容と到達レベルが対応している。 3-2 教育目標は、具体的で実現可能なものとなっている。 4 看護実践者としての能力を育成する側面と、学習者としての成長を促すための側面から教育目標を設定している。 5 卒業後の継続教育の考え方を示した上で、教育目標を設定している。	2.98 (3.00) ▲	1 看護実践能力等について明示している。 2-1、2-2　権利の尊重、看護実践能力、課題解決能力等の目標のための教育内容になっており、卒業時到達目標も設定している。 3-1、3-2　教育目標を達成するカリキュラム内容としている。 4　教育目標に、成長を促すため看護師としての使命と責任を自覚させることを掲げている。 5　就職後にチームとして連携・協働できる基礎的能力を養うことを教育目標の一つにしている。 (特記事項・課題) ・目標に沿ったカリキュラムとなっているが、看護実践能力については、課題がある。臨床現場で、実践が難しくなっている現状もあり、今後教育方法の工夫が必要である。また、卒業後の臨床に繋がるよう、チーム医療論を先駆的に取り入れ、他職種とチームで取り組む意味と目的を、リアルな事例を通して学んでいる。	○個人情報や安全管理の観点から、学生の臨床現場での実践が難しくなっていると思うが、教員が教育目標に対する理解を深め、看護実践能力の基礎を養うための取組を更に進めてもらいたい。

Ⅲ　教育課程経営 【31】	<a 教育課程経営者の活動＞ a-1-1 教育課程編成者と教職員全体は、教育課程と授業実践、教育評価との関連性を明確に理解している。 a-1-2 教育課程編成者と教職員全体は、教育理念・教育目的の達成に向けて一貫した活動を行っている。 <b 教育課程編成の考え方とその具体的な構成＞ b-1-1 看護学の内容について明確な考え方と根拠をもって教育課程を編成している。 b-1-2 学修の到達について明確な考え方と根拠をもって教育課程を編成している。 b-1-3 学生の成長について明確な考え方と根拠をもって教育課程を編成している。 <c 科目、単元構成＞ c-1-1 明確な考え方と根拠をもって科目を構成している。 c-1-2 明確な考え方と根拠をもって単元を構成している。	2.92 (2.85) ○	a-1-1、a-1-2 ・教育課程編集委員会は設置していないが、学科長、補佐を中心に話し合いを行っている。教育課程の編成、見直しにおいては、領域ごとに複数配置した教員により検討し、結果を教員会議に諮り教員全体で検討し共有している。 ・学生授業評価等の実施により、教育理念や目的の達成に向けて、次年度の教育活動に反映できるよう活動している。 b-1-1、b-1-2、b-1-3　教育課程編成の考え方と具体的な構成は学習ガイダンスに示すとともに、教育課程の構成、各分野の考え方と科目設定、領域毎の各看護学の考え方、各看護学の構成及び教育計画、学年到達目標を示し、学生にガイダンスを行っている。 c-1-1、c-1-2、c-1-3、c-2-1、c-2-2 ・看護の主要概念である「人間」「環境」「健康」「看護」について、学校としての考え方を示し、キーワード・目標から科目を設定している。	○教育課程編成等の考え方においては、教員間のコンセンサスを十分図り、学生の指導に当たって欲しい。 ○単位未修得の学生に対しては、基礎学習をしっかり行い、学力の向上を図れるよう指導をお願いしたい。 ○精神看護学については、実習に向けて事前の意識付けを行っていることは評価する。対象者を理解することに重点を置いた実習を継続して欲しい。 ○新人教員の育成にも配慮しており評価する。

	c-1-3 科目と単元の構成の考え方は教育理念・目的、教育目標と整合性がある。 c-2-1 構成した科目は看護師等を養成するのに妥当である c-2-2 構成した科目は養成所の特徴をあらわしている。 <d 教育計画> d-1-1 単位履修の方法とその制約について教師・学生の双方がわかるように明示している。 d-1-2 単位履修の方法は学生の単位履修を支援するものとなっている。 d-2 単位履修制の考え方を踏まえつつ、看護師等になるための学修の質を維持できるように、科目の配列をしている。 <e 教育課程評価の体系> e-1-1 単位認定の基準は看護師等に必要な学修を認めるものとして妥当である。 e-1-2 単位認定の方法は看護師等に必要な学修を認めるものとして妥当である。 e-2 他の高等教育機関と単位互換が可能な体制を整えている。		・シラバスを作成し、単元構成がわかるよう表示するとともに、科目設定理由、学習目標、学習内容を学習ガイダンスに示している。 ・学生の卒業時到達度評価からも教育・目的・目標と整合性があると考える。 d-1-1、d-1-2、d-2 ・履修方法等は「単位認定規程」に定めており、教育計画は、各学年ともに年度当初に学習ガイダンスで説明している。 ・効果的な学びになるよう科目配列を考え、学科進度を示しているが、単位制の考え方のもと可能な限り修得できるよう支援している。 ・単位未修得の学生が増えている点が課題であり、個に合わせた学習支援に取り組んでいく。 e-1-1、e-1-2　単位の認定については「単位認定規程」に定め、学生に周知している。 e-2　他の高等教育機関で取得した単位の互換については「既修得単位認定規程」に定めており、入学前に資料を送付、周知し、審査で認められた場合に認定している。	○実習評価アンケート調査によれば、成人看護学実習Ⅲにおいて、一部の学生から「教員と臨地実習指導者との指導の方向性が一致していなかった」との意見があった。病院はシフトの関係で指導者が交代する場合もある。教員の十分なフォローをお願いしたい。

	e-3-1 教育課程を評価する体系を整えている。 e-3-2 評価結果の活用における倫理規定を明確にしている。 <f 教員の教育・研究活動の充実> f-1-1 教員が専門性を発揮できるように、教員の担当科目と時間数を配分している。 f-1-2 教員が授業準備のための時間をとれる体制を整えている。 f-2-1 教育課程の実践者である教員が自ら成長できるよう、自己研鑽のシステムを整えている。		e-3-1 ・教育課程評価として、外部講師も含めた 10 時間以上担当する講師・教員に対して、学生からの授業評価を実施し、講師・教員に結果を知らせている。 ・実践能力の卒業時到達度評価も実施し、結果について分析し、次年度の教育計画に反映させている。 e-3-2　倫理規定は学校独自のものはないが、倫理原則や「看護者の倫理綱領」（日本看護協会）に基づいて実施している。 f-1-1 教員の専門領域については本人の希望と経験から判断し、配置している。 f-1-2　教員の授業時間数は経験年数により配慮し、新人教員にはプリセプターを置き、丁寧に相談にのるなど負担軽減に努めている。電子媒体の共有化などシステムの改善を進めていきたい。 f-2-1　自己研鑽システムについては研修旅費や図書購入費を確保し、学会や研修等主体性をもって参加できるよう各自で年間計画を立て取り組んでいる。	

	f-2-2 教員が相互に成長できるよう、相互研鑽のシステムを整えている。 <g 学生の看護実践体験の保障> g-1-1 臨地実習施設は、養成所の個別の教育理念・教育目的、教育目標を理解している。 g-1-2 臨地実習施設は学生の看護実践の学習を支援する体制を整えている。 g-2-1 臨地実習指導における学生の学びを保障するために、臨地実習指導者の役割を明確にしている。 g-2-2 臨地実習指導における学生の学びを保障するために、教員の役割を明確にしている。 g-2-3 臨地実習指導者と教員の協働体制を整えている。 g-3-1 学生からケアを受ける対象者の権利を尊重するための考え方を明示している。 g-3-2 対象者の権利を尊重する考え方に基づいて、学生への指導を計画的に行っている。 g-4-1 臨地実習において学生が関係する事故を把握、分析している。 g-4-2 学生に対する安全教育、安全対策を計画的に行っている。		f-2-2 相互研鑽システムは研究授業を年２回実施し、学びを深めている。 g-1-1 年度当初に打ち合わせを行い、周知を行っている。 g-1-2 ハード面において、カンファレンスを行う場所などが十分でない。 g-2-1 実習調整会議、および各々打ち合わせ時間を設け、周知を行っている。 g-2-2 臨地実習の教員の役割は、臨地実習要綱等により明確にしている。精神看護学の単位未修得者が多い点については、学習目標や評価内容の検討を行い改善していきたい。 g-2-3 事前打ち合わせなどを綿密に行っている。 g-3-1、g-3-2 臨地実習要綱に明示し、実習前オリエンテーションにおいて周知徹底および指導を行っている。 g-4-1 事故等の発生時にはインシデントレポートにより分析、改善に役立てている。 g-4-2 安全教育、安全対策は臨地実習要綱により徹底している。	

			（特記事項・課題） ・全体の評価は上がった。学生定員が倍の240名体制となり、2回目の卒業生を見送った。臨地実習は14の病院施設で実施している。診療所実習も令和元年度から始まり、実習施設全体は108か所となった。新しい施設での実習は目標の理解、実習方法など、調整に時間を要した。実習施設への教育目標の理解促進に向け、今後も連携調整を図っていく。具体的には、実習指導者会や指導者研修会、病棟実習打ち合わせなどの機会を通して、丁寧な説明を行い理解につなげていく。 ・診療所での臨地実習については、市医師会の協力の下、地域医療への理解を進めるうえで、先駆的な取り組みとなっている。学生にとっては興味と関心、そして支援者としての視野の広がりにつながるものと考えている。 ・カリキュラム改正に向けて、教育課程編成の情報収集に努め、各領域の教育内容を深め、地域とのつながりを学校の特長とした教育課程編成ができるよう努める。	

Ⅳ　教授・学習・評価課程 【17】	<a 授業内容と教育過程との一貫性、看護学としての妥当性、授業内容間の関連と発展＞ a-1 授業の内容は、教育課程との関係において、当該学生のための授業内容として設定されている。 a-2-1 授業内容のまとまりの考え方を明確に述べている。 a-2-2 授業内容のまとまりの考え方は、科目目標との整合性をもっている。 a-3 授業内容のまとまりは、看護学の教育内容として妥当性がある。 a-4 授業内容間の重複や整合性、発展性等が明確になっている。 <b 授業の展開過程＞ b-1 授業形態（講義、演習、実験、実習）は、授業内容に応じて選択している。 b-2 授業展開に用いる指導技術についての考え方を授業計画等に明示し、実践している。	2.94 (2.90) ○	a-1～a-4 ・授業内容は、学習ガイダンス内容との整合性を図りながら、重複内容等について随時見直しを行っている。 ・各教員がアクティブラーニングを取り入れた授業設計に留意している。 ・9 年目となる研究授業については、外部講師の指導を受け年間 2 名ずつ実施している。 ・教員養成課程の学生を受け入れ、指導することで、教授内容や方法など発展と深まりにつながっている。 ・各教員が積極的に研修参加等を行い、授業のための教材研究を積極的に行っている。 ・教員は学習指導案（授業案）を作成し、教育観、学習者観、指導観、指導計画を全教員で共有し、教育内容の妥当性や授業内容間の重複や整合性を確認、調整を行っている。 b-1～b-4 ・授業形態は授業内容に応じて選択し、講義演習等が学生にわかるようシラバスに明記している。	○能力やキャリアアップに向けたアクティブラーニングの推進を図り、教員の教育意欲が高まっていることは評価できる。引き続き充実に努めて欲しい。 ○ＯＳＣＥ（客観的臨床能力試験）等の評価結果については、授業の改善に向け、フィードバックをしていることは評価できる。 ○教員も研修の一環として、ぜひ、臨床現場に足を運んでもらいたい。 ○教員の定着、意識の高まりが、最終的に学生の学習意欲の向上に結び付くことを期待する。

	b-3 授業の展開過程の他に、学生の学習が深化、発展するための方法を意図的に選択し、学習を支援している。 b-4 学生に対し効果的な教育・指導を行うために、教員間の協力体制を明確にしている。 <c 目標達成の評価とフィードバック> c-1-1 評価計画を立案し、実施している。 c-1-2 評価結果に基づいて、実際に授業を改善している。 c-2-1 学生および教育活動を多面的に評価するために、多様な評価の方法を取り入れている。 c-2-2 教育目標の達成状況を多面的に把握している。 c-3-1 学生に単位認定のための評価基準と方法を公表している。 c-3-2 単位認定の評価には公平性が保たれている。 <d 学習への動機づけと支援> d-1-1 シラバスの提示や学習への指導は、養成所全体としての一貫性がある。 d-1-2 シラバスの提示や学習への指導は、学生の学習への動機づけと支援になっている。		・複数の教員が担当する演習は、指導内容について教員間で共有し、学内演習も積極的にアドバイスし合うなど協力体制が整っている。模擬患者の活用も積極的に行っている。 c-1-1～c-3-2 ・「単位認定規程」を学生必携等に掲載、単位認定のための評価基準を公表し公平性を保っている。 ・授業の一部や実習には、パフォーマンス評価を取り入れ、卒業前には、OSCE（客観的臨床能力試験）を実施し、評価結果についてはすべてフィードバックを行い、授業の改善を行っている。 d-1-1、d-1-2 ・各教員がシラバスを共通理解し、実践している。 ・シラバスの提示により、学習の具体的内容や方法が確認されることで学習への動機づけと深化、発展につながっている。	

			（特記事項・課題） ・毎年度評価が高い。教員が定着したことで、教育目標への理解が深まり、授業内容に工夫ができたこと、教員の学習意欲が高く、各研修や学会などに積極的に参加できていること、教員内の助言やサポートができていることが結果につながっているものと考えている。 ・研究授業は先駆的な取り組みとして他校から評価が高く、アクティブラーニングをはじめとする教員の教育力の向上につながっている。 ・実習前には、派遣をお願いしている模擬患者を相手に、関わりを体験し、実習に臨んでいる。またリフレクションでは、患者の思いをストレートに表現していただくことで、学生が自身のありようを振り返る良い機会となっている。 ・今後は、令和４年４月のカリキュラム改正に向けて、現行カリキュラム全体の評価の向上を目指していく。	

Ⅴ　経営・管理課程 【36】	<a 設置者の意思・指針＞ a-1-1 養成所の管理者は教育理念・教育目的についての考え方を明示している。 a-1-2 養成所の管理者は教育課程経営についての考え方を明示している。 a-1-3 養成所の管理者は教育評価についての考え方を明示している。 a-1-4 養成所の管理者は養成所の管理運営等についての考え方を明示している。 a-1-5 明示した管理者の考えと、設置者の意思とは一貫性がある。 a-1-6 教職員は養成所の設置者と管理者の考え方を理解している。 <b 組織体制＞ b-1-1 養成所の組織体制は、教育理念・目的を達成するための権限や役割機能が明確になっている。 b-1-2 意思決定システムが明確になっている。 b-1-3 意思決定システムは、組織構成員の意思を反映できるように整えられている。 b-1-4 意思決定システムは、決定事項が周知できるように整えられている。 b-2-1 組織の構成と教職員の任用の考え方と、教育理念・教育目的達成との整合性がある。 b-2-2 教職員の資質の向上についての考え方と対策には教育理念・教育目的達成との整合性がある。	2.94 (2.93) ○	a-1-1～a-1-6 校長は、設置者である財団が承認した第２次中期経営計画に基づき、毎年度策定する事業計画について、全教員に教職員会議で説明している。 b-1-1 学則や校務分掌規程に明記している。 b-1-2、1-3、1-4 会議規程により明確になっている。 b-2-1 任用にあたっては、採用面接の際、本校の教育特色の理解を重視している。 b-2-2 ・看護実践能力の向上のために、北里大学病院との相互研修を実施した。 ・臨床指導者に OSCE（客観的臨床能力試験）へ協力いただき、学生の学びの状況を理解してもらうことができた。	○財団が定める第２次中期経営計画、それに基づき毎年度策定する事業計画について、教職員会議で全教員に向けて説明していることが、高評価につながっていると考えられるので継続して欲しい。 ○第２次中期経営計画に基づき質の高い看護師養成に取り組むとともに、財政や施設整備、教員の確保等、教育環境の充実に向けて、教員や学生から意見を聴く仕組みづくりについて、更なる検討を進めて欲しい。 ○教員への本評価の方法（評価基準等）について、更に理解を深めてもらう必要がある。

	<c 財政基盤> c-1-1 財政基盤を確保することについての考え方が明確である。 c-1-2 財政基盤を確保することについての考え方は、学習・教育の質の維持・向上につながっている。 c-2-1 教職員は、養成所がどのような財政基盤によって成り立っているかを理解している。 c-2-2 教職員のそれぞれの観点からの財政についての意見は、経営・管理過程に反映できるようになっている。 <d 施設設備の整備> d-1-1 学習・教育環境の整備について、管理者の考え方を明示している。 d-1-2 管理者の考え方に基づいて整備計画を立案し、実施している。 d-2-1 看護の専門職教育に必要な施設設備を計画的に整備している。 d-2-2 医療・看護の発展や学生層の変化に合わせて、施設設備を整備・改善している。 d-3-1 養成所が設置されている地域環境との関連から学生および教職員にとっての福利厚生の施設設備の整備を検討している。 d-3-2 学生が学生生活を円滑に送り、教職員が職務を円滑に遂行できるように施設設備を整備している。		c-1-1 第 2 次中期経営計画において確保策が示され、出資 3 団体へ補助金要望を提出し理解をいただいている。 c-1-2　補助金の活用で教材購入、図書の充実等に役立てている。 c-2-1　年度当初に全教職員に経営計画について説明している。 c-2-2　意見の反映については、管理者会議等で検討している。 d-1-1　校長は、設置者である財団が承認した第 2 次中期経営計画に基づき、毎年度策定する事業計画について、全教員に教職員会議で説明している。 d-1-2 、d-2-1 管理者会議等において整備計画を立案し整備を進めている。 d-2-2 医学文献検索サービス「メディカルオンライン」の利用を開始するなど医療・看護の発展に合わせた教育環境の整備・改善を行っている。 d-3-1、d-3-2 教員室内の事務机、椅子及び学生からのレポート提出用のキャビネットの更新を行った。	

	<e 学生生活の支援> e-1-1 学生が入学後に学修を継続できる支援体制を多角的に整えている。 e-1-2 学生が活用しやすいように学生生活の支援体制を整えている。 e-1-3 支援体制は、実際に学生に活用され、学修の継続を助けている。 <f 養成所に関する情報提供> f-1-1 教育・学習活動に関する情報提供を関係者（保護者等）に行っている。 f-1-2 関係者（保護者等）への情報提供は関係者から協力・支援を得ることにつながっている。 f-2-1 看護師等を養成する機関としての存在を、十分にアピールする広報活動を適切に行なっている。 f-2-2 広報の内容は、社会的説明責任を果たすものになっている。 <g 養成所の運営計画と将来構想> g-1-1 養成所は明確な将来構想のもとに、運営の中・長期計画、短期計画、年間計画を立案している。		e-1-1 入学前には、通信教育を紹介し、入学後はメンタルサポート体制、図書室の利用等の支援を行っている。 e-1-2、e-1-3 心理カウンセラーを配置するとともに、学校医を精神科医師に委嘱し、課題のある学生について相談を行っている。 f-1-1　教育内容について、保護者には、入学時の「家族会」での情報提供、高校の進路指導教員向けには「進路ガイダンス」での情報提供、病院へは、本校の卒業生の動向について、理事会等には学校運営全般について報告している。 f-1-2　受験者増、実習施設の引き受け、市内病院への就職増等につながっている。 f-2-1　学校ホームページの充実、ポスターの全市内の自治会掲示板への掲示等により適切に行っている。 f-2-2　ホームページ上で自己評価結果及び学校関係者評価、財政状況等を公開している。 g-1-1　「より質の高い養成所を目指す」とした将来構想を掲げ 5 年ごとに、財団として中期経営計画を策定している。	

	g-1-2 その実施・評価は将来構想との整合性をもっている。 <h 自己点検・自己評価体制> h-1-1 自己点検・自己評価の意味と目的を理解している。 h-1-2 実際に自己点検・自己評価を行うための知識と方法を明確にもっている。 h-2-1 自己点検・自己評価体制を整え、運用している。 h-2-2 自己点検・自己評価は、養成所のカリキュラム運営、授業実践にフィードバックするように機能している。 h-2-3 自己点検・自己評価体制は、養成所の教育理念・教育目的、教育目標の維持・改善につながるように機能している。		g-1-2　将来構想を達成するための施策を中期経営計画に盛り込み、推進している。 h-1-1、h-1-2 ・全教員が評価の意味を理解し、担当者評価を行っている。 h-2-1 自己点検・自己評価規程を整備し、委員会を設置している。 h-2-2 評価結果の課題については、管理者会議等で検討し、その都度、事業内容に反映させている。 h-2-3 自己評価結果について、毎年、理事会に報告し承認を得る仕組みがあり、理事会での意見や提案を管理者会議等で検討している。 (特記事項・課題) ・令和元年度は、第 2 次中期経営計画の 2 年目であり、目標等については意識的に教職員へ伝えてきた結果、評価が高くなったと考える。ただし、財政や施設整備面の意見反映の仕組みについては不十分な面がある。	

			・学生へのメンタルサポート体制の充実のため、スクールカウンセラーの他に精神科医のサポートを受けた。相談件数は年間延べ21件であった。サポートを受け、その後の学生への指導の方針が明確になったことで、学生への指導がスムーズに行え、学生と教員への負担が軽減された。 ・経営に係る課題としては、引き続き施設・設備の老朽化への対処や教員の確保など、教育環境の維持・充実に向けた長期的な財政・事業計画を構築していく必要がある。 ・校長を除く教員の定数は20人で満たしているが、学生の能力差、生活体験不足などへの指導に時間を要し、日々の業務に追われている現状がある。 ・今後は、業務の見直し、効率的な体制づくり等について取り組む必要がある。	
Ⅵ　入学 【2】	1 教育理念・教育目的との一貫性をもって入学者選抜についての考え方を述べている。	3.00 (3.00)	1・学生受け入れ方針を定め、入学試験においてこれに合致した学生を選抜している。 ・オープンキャンパスや学校説明会、高校で開催される進路説明会でも、本校の学生受け入れ方針を具体的に説明して理解を促している。	○受験生の確保、愛校心の醸成等のため、イメージキャラクターを制作したことは評価できる。

	2 入学者状況、入学者の推移について、入学者選抜方法の妥当性及び教育効果の視点から分析し、検証している。		2　入試会議を随時開催し、毎年の入試区分ごとの受験者推移等を分析し、区分ごとの定員枠や点数配分等を変動させている。 （特記事項・課題） ・高校の進路担当教員への学生受け入れ方針の丁寧な説明、受験者の動向の分析等の取組が高い評価になったと考える。 ・指定校以外の高校推薦受験者が 35 名と本年度も多く、受験者全体では、定員の 3 倍にあたる 248 名であった。少子化による 18 歳人口の減少で受験生の倍率が望めない状況が推察されるが、今後も公平かつ適性を見極められる、入学者選抜の在り方を検討していく必要がある。 ・受験者確保の観点から、平成 30 年 4 月入学の選抜試験から問題を公表している。また、学内の様子を学生目線で随時発信している。 ・平成 29 年度入学生より、推薦入学者と社会人入学者に対して、入学前学習を導入した。令和元年度入学生の 64.3%（前年度 65.3%）が受講し、新入生の成績から一定の効果が読み取れ、受講の効果があったと考える。	○少子化や大学志向等の影響もあるが、安定的な受験者確保のため、引き続き学生募集に努めてもらいたい。

Ⅶ　卒業・就業・進学 【8】	1 卒業時の到達状況を捉える方法が明確であり、計画的に行っている。 2-1 卒業時の到達状況を分析している。 2-2 卒業生の就業・進学状況を分析している。 2-3 卒業生の到達状況、就業・進学状況についての分析結果は、教育理念・教育目標との整合性がある。 3-1 卒業生の就業先での評価を把握し、問題を明確にしている。 3-2 卒業生の就業先との情報交換や調査の実施等ができる体制を整えている。 4-1 卒業生の活動状況を把握し、統計的に整理している。 4-2 卒業生の活動状況の分析結果を、教育理念・教育目的、教育目標、授業の展開に活用している。	2.88 (2.88)	1、2-1、毎年「看護師に求められる実践能力と卒業時到達目標」の項目に沿って、卒業時にアンケートを実施し、比較等の分析を行っている。結果では、Ⅰ群からⅤ群まですべてにおいて評価が高い結果であった。 2-2、卒業生は実習施設への就職が年々上昇し、本年度は 100%であった。 2-3、地域に貢献できる人材の育成については、市内施設への就職が 9 割を超えていることから教育理念・教育目標との整合性はあると考える。 3-1、3-2 卒業生の状況などは、カミングデイや就職先の看護部長等から情報提供を受け、面接などで対応している。 4-1、4-2 卒業生の様子は、上記のほか、実習指導者や教育担当者などから、近況を把握し、今後の学校運営に活用できるよう努めている。 (特記事項・課題) ・評価点は、同じであったが、国家試験の不合格者数は 4 名から 1 名に減少した。全員合格を目指し、今後も計画的に取組んでいく。	○実習施設への就職率が年々上昇し、令和元年度は１００％であったことは高く評価したい。これからも本校設立の意義を理解し、引き続き就職率の維持に努められたい。 ○地域医療を理解するためにも、診療所実習は大変良い取組と評価する。 ○市内就職は中途退職も少なく、定着の効果があり、病院のメリットも大きいので、これからも積極的に取り組んで欲しい。

			・卒業時のアンケート結果は、すべての項目について前年度の結果を上回っており学習の成果と自己の成長を学生個々が実感し、卒業に至ったものと考えられる。 ・就職や進学に関しては、入学前の学生対象にはオープンキャンパスや高校での進路説明会などで、本校が相模原市民の健康保持増進に寄与することが目的の学校であり、地域で活躍できる人材を求めていることを説明した。また、入学後の学生にもその都度、市内就職の意義を説明した。これらの取組により、市内就職率は９割を超えた。 ・今後も、卒業生の就職先での状況など教育担当者などから情報を得ながら、情報を整理・分析し教育活動等に反映していく。	
Ⅷ　地域社会・国際交流 【10】	<a 地域社会＞ a-1-1 社会との連携に向けて、地域のニーズを把握している。 a-1-2 看護教育活動を通して地域社会への貢献を組織的に行っている。 a-2-1 養成所の教育活動について、地域社会のニーズを把握する手段をもっている。 a-2-2 養成所から地域社会へ情報を発信する手段をもっている。	2.74 (2.67) ○	a-1-1～a-3-2 ・敷地内に隣接する市まちづくりセンター及び公民館職員や地域の自治会役員等との情報交換により把握している。 ・市民健康まつりでのバイタル測定等への協力により、地域住民の健康づくりに貢献している。	○様々な機会を通して、地域交流に努めていることを評価する。

	a-3-1 養成所が設置されている地域の特徴を把握している。 a-3-2 地域内における諸資源を養成所の学習・教育活動に取り入れている。		・市まちづくりセンター及び公民館等との情報交換会議、自治会掲示板へのポスター掲示、ブログ及びLINEを活用し情報を発信している。 ・地域に貢献できる人材育成のため、小児看護学では公民館主催の「こどもまつり」へ、老年看護学では、地域の高齢者サロンへ参加するとともに、小学生対象の職業体験イベントである「さぽせんキッズタウン」に協力参加している。また、在宅看護論では令和元年度より、市内23ヶ所の診療所で実習を開始した。 ・市病院協会が主催する看護職確保対策事業に教職員を派遣するとともに、技術研修会では本校の実習室、教材を提供し、潜在看護師の復職支援事業に協力した。 ・社会福祉法人が運営するパンの販売事業に協力するため、月2回程度の頻度で学校内に場所を提供している。 ・学生自治会が中心となり、肺の難病により米国で肺移植手術を受けた相模原市内在住の高校生の募金活動に協力した。	○健康づくりや災害訓練などの地域の行事に、学生が参加することにより、本校の存在意義を高めてもらう機会となるよう努めてもらいたい。

	<b 国際交流＞ b-1 国際的視野を広げるための授業科目を設定している。 b-2 国際的視野を広げるための自己学習に適した環境を整えている。 b-3 海外からの帰国学生や留学生の受け入れ体制を整えている。 b-4 留学や海外において看護職に就くこと等を希望する学生に対応できる体制を整えている。		b-1 国際交流については、NPO 法人に依頼し海外の医療・看護活動の実情を学習する科目を設けている。 b-2　国際的視野を広げるための環境には特化していないが、PC 視聴覚教室の学生利用パソコン及び図書室の学習スペースを学生に提供している。 b-3 留学生を受け入れており、学生の状況に合わせた対応を行っている。 b-4 卒業証明書や成績証明書などの証明書類を英語などの外国語に翻訳し発行する対応をとっている。 （特記事項・課題） ・令和元年度の白優祭には、公民館で活動するサークルの体験コーナーを設けるなど、まちづくりセンターや公民館等が敷地内に隣接するという本校の環境特性を生かした教育活動を展開することができた。今後も教育内容の充実とともに、地域のニーズに寄り添い行動できる人材の育成に努めていく。	

			・全体の評価点は僅か上がったが、国際交流に関する評価は変わらない。今後は、職員全体が留学生等の受入の現状をはじめ、国際交流に対する理解を深めるとともに、国際交流学習の手法について検討していく必要がある。	
Ⅸ　研究 【3】	1 教員の研究活動を保障（時間的、財政的、環境的）している。 2 教員の研究活動を助言・検討する体制を整えている。 3 研究に価値をおき、研究活動を教員相互で支援し合う文化的素地が養成所内にある。	2.96 (2.72) ○	1 研究授業は、毎年 2 名の参加を計画的に実施している。 2 助言・検討する体制は研究担当、管理者を中心に整えている。 3 教員の共同研究を第 50 回日本看護学会、看護教育学術集会、神奈川県看護教育フォーラムで研究発表を行ったことで、教員の研究に対する価値意識が高まった。研究をまとめるにあたっては、会議などで全教員が相互に支援し合った。	○教員の研究意識の高まり、相互支援等が、成果としてフィードバックされ、学生の指導に生かされるよう努められたい。

			（特記事項・課題） 　教員が研究活動を通して、教育を計画・実践し、現状を評価し課題を明確にするという教育のPDCAサイクルを確認する意味を深められたことは、教育者として意義あることであり、教員相互で支援し合うという素地が育っていると考えられる。今後も教員が研究活動に積極的に参加できるよう、さらに支援を続けていく。	

■学校関係者評価委員から評価全体に係る意見等

〇入学した学生全員が、３年間で卒業でき、国家試験に合格し、就職できるよう、入学試験の選抜方法の見直し、中途退学や留年をしないための支援等、安心して学校生活を楽しめる環境づくりを推進されたい。

以　上